材料の化学2

第5回講義

担当 菊池明彦 kikuchia@rs.tus.ac.jp

1

1

第5回 不飽和炭化水素2

アルケン、アルキン 付加反応と置換反応 極性付加反応 ハロゲンの付加 水の付加 酸の付加 非対称形アルケンへの非対称な反応剤の付加 アルケンへの求電子付加反応機構 アルケンのホウ水素化反応

2

付加反応と置換反応

アルカン:置換反応 例)ハロゲン化 自発反応ではない R-H + A-B \rightarrow R-A + H-B

アルケンの一般的な反応 = 付加反応 (addition reaction)

極性付加反応

a) ハロゲンの付加

自発反応:室温またはそれ以下でも瞬時に反応が生起する

3

b) 水の付加 (水和) 1000 (酸熱下) (H-0H) (H-0

$$+ H-OSO_3H \rightarrow H$$
 OSO_3H

4

3

非対称形アルケンへの非対称な反応剤の付加

CH2+CH2CH3CH+CHCH3CH2+CH-CH3CH2+CHCH2CH31元1元1元対称形: symmetric非対称形: asymmetric

反応剤および(または)アルケンが対称形であれば得られる付加生成物は一種のみ

反応剤とアルケンの両方が非対称形の場合、2種の生成物が生成可能

位置異性体 (regioisomer)

これらのうち、どちらか1種類しか生成しないとき、反応は位置特異的(regiospecific) またったが現代 これらのうち、いずれか一方が主に生成するとき、反応は位置選択的(regioselective) がこれが

5

5

プロペンの水和反応を考えよう

2-プロパノール 1プロ

プロペンへの酸の付加反応

メチルプロペンへの水の付加反応

$$\begin{array}{cccc} & & & \text{OH} \\ \text{CH}_3\text{C} = \text{CH}_2 & + & \text{H}_2\text{O} & \rightarrow & \text{CH}_3\text{CCH}_3 \\ \text{I} & & & \text{HARW} & & \text{I} \\ \text{CH}_3 & & & \text{CH}_3 \end{array}$$

2×44270100-1

CHOCHCH3 15th

EK (tan

<u>反応剤はすべて極性</u>があり、<u>陽性と陰性末端を</u>もつ

"非対称な反応剤が非対称形のアルケンに付加する場合、二重結合の2個の炭素のうち、水素原子数の多いほうの炭素に反応剤の電気的陽性部分が結合する"

Vladimir Markovnikovが見出した規則 **『Markovnikov則』**

19世紀に見出された「経験則」

6

アルケンへの求電子付加反応機構

二重結合:電子を求める反応剤にπ電子を供与

 $E^+ + :Nu^- \rightarrow E:Nu$

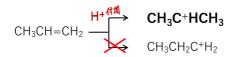
一般のアルケンでは、炭素陽イオンが形成される第一段階の反応が第2段階目の反応より遅い = 律速段階

この反応を"求電子付加反応 (electrophilic addition reaction)"という

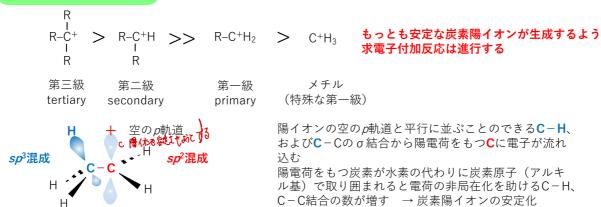
7

反応性きわめて高い

7

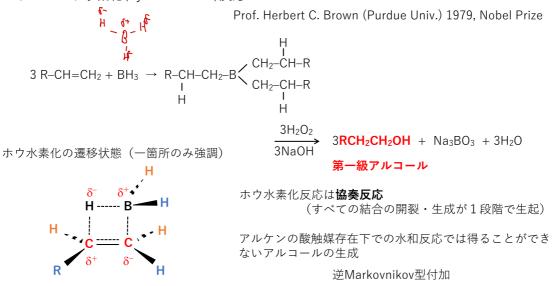


炭素陽イオンの安定性



8

アルケンのホウ水素化(hydroboration)反応



電気陰性度;H: 2.2, B: 2.0

9

9

第5回講義 まとめ

アルケン 付加反応と置換反応 極性付加反応 ハロゲンの付加 水の付加 酸の付加 非対称形アルケンへの非対称な反応剤の付加 アルケンへの求電子付加反応機構 アルケンのホウ水素化反応

第5回講義を終了します。

LETUSに掲載した第5回講義課題をダウンロードし、解答後、PDFに変換したファイル(ファイル名は学籍番号_氏名_第5回)を指定期日までにアップロードしてください。

11